

学内便ポスト番号 (大) T-3
男女共同参画推進センター 行
(回答後は、このまま学内便で返送いただけます)

東京工業大学における男女共同参画事業に関する調査(教員向け)

【アンケート用紙】

【1】 あなたご自身について伺います。

Q1. 性別を教えてください。(○は1つ, 必須)

1. 男性 2. 女性

Q2. 年齢を教えてください。(○は1つ, 必須)

1. 34歳以下 2. 35歳～44歳 3. 45歳～54歳 4. 55歳～64歳 5. 65歳以上

Q3. 現在の職位を教えてください。(○は1つ, 必須)

1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. 教務職員 6. その他

Q4. 現在の雇用形態を教えてください。(○は1つ, 必須)

1. 常勤(任期なし) 2. 常勤(任期付き) 3. 特定有期雇用教員

Q5. 所属部局を教えてください。(○は1つ, 必須)

1. 理工学研究科(理学系) 2. 理工学研究科(工学系) 3. 生命理工学研究科
4. 総合理工学研究科 5. 社会理工学研究科 6. 情報理工学研究科
7. イノベーションマネジメント研究科 8. 資源化学研究所 9. 精密工学研究所
10. 応用セラミックス研究所 11. 原子炉工学研究所 12. 学内共同研究教育施設等その他

【2】 本学の男女共同参画について伺います。 (*1,*2,*3の詳細は別紙参照)

Q6. 本学が男女共同参画推進センター(以下GECという)を設置したことを知っていましたか。(○は1つ, 必須)

1. はい 2. いいえ

Q7. 本学では「男女共同参画ポリシー」(*1)および「男女共同参画を推進するための基本指針」(*2)を定め、公表していることを知っていましたか。(○は1つ, 必須)

1. はい 2. いいえ

Q8. 本学が、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業(*3)に採択されたことを知っていましたか。(提案課題名「理工系女性研究者プロモーションプログラム:Leap」H20～22年度))(○は1つ, 必須)

1. はい 2. いいえ

【3】男女共同参画を推進するために本学が行っている支援（詳細別紙参照）について伺います。

Q9. あなたは、これまで本学が行ってきた次の各支援策をご存じでしたか。また、利用したことがありますか。表中のいずれか1つ○をご記入ください。(必須)

Q10. 次の各支援策は、来年度から一部を除いて男女ともに利用できます。今後の各支援策について、「利用したい」「周囲に利用を勧めたい」「継続すべきだ」の中で、あなたの考えに該当するものがあれば表中に○をご記入ください。(複数可)

本学が行ってきた支援策 それぞれの詳細説明は、 別紙をご覧ください	Q9. これまで、各支援策を ご存知でしたか？ いずれか1つに○をご記入下さい			Q10. 今後の各支援策について、 あなたの考えに該当するものがあ れば○をご記入下さい(複数可)		
	利用 した	知っていたが、 利用していない	知らな かった	利用 したい	周囲に利用 を勧めたい	継続す べきだ
1. アシスタントの雇用経費 支援						
2. Web/音声会議システム の貸出						
3. ベビーシッター派遣支援						
4. 育児支援マーク入りグッズ						
5. 育児と介護のための 支援案内パンフレット						
6. 産休・育休・介護休業期間 を任期から除く特例						
7. 子育て教員部分就業制度						
8. GEC おしゃべりサロン (一部女性限定)						
9. 女性サポート相談室 (一部女性限定)						
10. GEC からのメールニュース						
11. 女性研究者のための人材登 録サイト(登録は女性限定)						

Q11. 前問の支援策の中で、改善すべき点があるもの、または継続する必要がないと思われるものがあれば、その番号と、改善策または継続不要の理由をご記入ください。

(No.) (改善・不要) (改善策または不要の理由)

Q12. 本学の男女共同参画事業のうち研究者を対象とした支援や制度として、今後、必要だと思われることがあればご記入ください。

【4】男女共同参画についての意識改革を目的とした本学の取組み(詳細別紙参照)について伺います。

Q13. あなたは、本学の次の取組みに関わったことがありますか。あてはまる番号に1つ○をご記入ください。(必須)

- ◆女性研究者招へい講演・セミナー (H20, H21)
- ◆男性研究者・女性研究者合同研究発表会 ～研究者としてのキャリアを考える～(H22)
- ◆男女共同参画に関するシンポジウム
- ◆上層部向け男女共同参画講演会

- 1 いずれかの開催運営に携わった、または発表者として参加協力した。
- 2 いずれかに参加したことがある。
- 3 いずれかの取組みを知っていたが、関わったことはない。 → Q15 へ
- 4 いずれの取組みも知らなかった。 → Q15 へ

Q14. 【前問で1または2と答えた方(必須)】取組みに関わっていかがでしたか。(該当するもの全てに○)。

- 1 学外の女性研究者との交流が増えた。
- 2 学生やPD等に学外の女性研究者との交流を促すことができた。
- 3 学生やPD等にキャリアモデルを提示できた。
- 4 女子学生や女性PDの指導に役立った。
- 5 女性研究者に対する印象(考え方)が変わった。
- 6 女性研究者を取り巻く研究・教育環境がより理解できた。
- 7 大学構成員の多様性が必要なことが理解できた。
- 8 ワーク・ライフ・バランスなど男女共同参画の話題を周囲と気軽に話すようになった。
- 9 その他 ()

Q15. これらの取組みの他に、男女共同参画について「意識改革」を行う効果的なアイデアがあればご記入ください。

【5】理工系分野への進学者・研究者を増やすことを目的とした、主に女性対象の本学の取組み(詳細別紙参照)について伺います。

Q16. あなたは、これまで本学の次の取組みをご存じでしたか。(各取組みについて、いずれか1つに○。(必須)

Q17. これらの取組みの中から、今後も継続すべきだと思われるものに○をご記入ください。(複数可)

本学の取組み それぞれの詳細説明は 別紙を参照ください	Q16. 各取組みをご存知でしたか? いずれか1つに○をご記入下さい		Q17. 今後も継続すべきだと思われるものに○をつけてください。
	知っていた	知らなかった	
1 小中学生向け科学セミナー			
2 女子高校生向け研究室ツアー			
3 本学女子学生による母校(高校)訪問			
4 女子学生向けキャリアカフェ			
5 学部生向けの男女共同参画に関する講義			

Q18. これらの取組みの他に、理工系への進学者(特に女性)を増やすために効果的なアイデアがあればご記入ください。

【6】女性教員の増員について伺います。

第4期科学技術基本計画(素案)では、女性研究者の採用目標値(自然科学系)が以下のように定められ、内閣府の第3次男女共同参画基本計画(H22.12.17.閣議決定)でも、同じ目標値が書かれています。文部科学省の指針では、同じ値が教員(常勤)の採用目標値として書かれています。

「自然科学系 25%(早期)、更に 30%を目指す。特に理学系 20%、工学系 15%、農学系 30%の早期達成及び医学・歯学・薬学系あわせて 30%の達成を目指す。」

Q19. 本学においても、女性教員の採用割合(採用数)を増やすことが期待されています。女性教員の採用数を増加させる方策について、導入すべきとお考えになるものすべてに○をご記入ください。(必須)

1. 大学全体で女性教員割合または採用割合の数値目標を設定し、学外に公表する。
2. 部局毎に女性教員割合または採用割合の数値目標を設定する。→
3. 専攻毎に女性教員割合または採用割合の数値目標を設定する。→
→【2または3に○を付けた方へ】Q19-1. 他大学では、目標値達成のインセンティブとして、次のことが検討されています。本学で適切と思われるものに○を付けてください。(複数可)
 1. 目標に到達した部局または専攻へ追加経費・スペース等を配分する。
 2. 目標に到達しなかった部局または専攻への配分経費を減額する。
 3. 女性教員を採用した部局または専攻へ、特任助教(任期付)を配置する。
 4. 目標に到達しなかった部局または専攻の定年教員補充を留保する。
 5. その他()
4. 既存の教員ポストのいずれかを女性限定で公募する。
5. 女性教員限定のポストを創設する(雇用費の予算化が必要)。
6. 公募を海外雑誌にも掲載する。
7. 新規採用教員に研究費を大学全体から貸与する制度を創設する。
8. 採用された女性教員に、研究費を供与する(予算化が必要)。
9. 全部局に任期制を導入し、教員の流動化を促進する。
10. 任期制を撤廃し、応募を躊躇させないようにする。
11. 人事評価システムを育児・介護中の期間を考慮したものとし、透明化する。
12. 学外に対し、本学の男女共同参画についての支援策を積極的に宣伝する。
13. 産休・育休・介護休暇中の教員の講義を代替で行う非常勤講師の雇用制度を創設する。
14. 産前・育児中・介護中教員へのアシスタント配置事業の予算を増加する。
15. ベビーシッター派遣支援事業の予算を増加する。
16. 大学が経営する学内保育園を設置する(設置・経営費の予算化が必要)。
17. 学内に業者が経営する保育園を設置する(自治体の補助金を使うため、学内者の優先入園はできない)。
18. その他()

Q20. 本学の女性教員比率は現在、約7%です。あなたが望ましいと思う比率は何%ですか。(必須)

%

Q21. 女性教員の割合を増やすことで、本学の教育・研究、また、科学の発展にどのような影響があると思いますか。

ご協力ありがとうございました。